

糖尿病教室

- 日時** 2019年3月19日(火) 14時00分~15時00分 (開場 13時30分)
- 演題** 「糖尿病と動脈硬化・癌」「糖尿病と医療費」
- 演者** 神鋼記念病院 糖尿病代謝内科 医師・医事室 財田 佳奈 診療情報管理士
- 会場** 神鋼記念病院 呼吸器センター 5階 大会議室
- 参加料** 無料
- 参加方法** お申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

膠原病・リウマチ教室

- 日時** 2019年6月1日(土) 14時00分~16時00分
- 演題** ステロイド薬 -功罪相半ば?
- 演者** 神鋼記念病院 膠原病リウマチセンター 熊谷 俊一 センター長
- 会場** 神鋼記念病院 呼吸器センター 5階 大会議室
- 参加料** 無料
- 参加方法** 平日 17 時までには病院代表 078-261-6711 へお電話ください。
担当：膠原病リウマチセンター 辻村

HEALTHY RECIPE

コンビニ商品で作るサンドイッチ

栄養室 管理栄養士 田中 利幸

自宅に鶏肉や魚の缶詰があれば、食パンとカット野菜を近くのコンビニで買って帰るだけで自分好みのサンドイッチが作れます。

水を使わず、調理器具を使わず、火も使わないで作るサンドイッチ。パンに挟む物を肉や魚、レタスやキャベツ、玉ねぎなどいろいろな食材を使用し、調味料も変えればバリエーションも豊富になります。1食 270 円前後で手軽にできますよ。



- 材料**
- ・レタスミックスサラダ 50g
 - ・鶏肉煮ハーフ風味 缶詰 70g (サラダチキンでも可)
 - ・マヨネーズカロリーハーフ 10g
 - ・袖こしょう (練り) お好みで
 - ・6 枚切り食パン 2 枚 (8 枚切りやサンドイッチ用のパンでも可)

- 作り方**
1. マヨネーズと袖こしょうを和える
 2. 食パンに [1.] を塗る
 3. 野菜をパンに敷く
 4. 野菜の上に鶏肉をのせる
 5. もう 1 枚の食パンで挟む

栄養量
469kcal、たんぱく質 23.8g、
脂質 14.9g、炭水化物 59.8g、
塩分 2.5g

Medical News

2019年3月
Vol.141

Shinko Hospital

Contents

- 特集
遺伝性乳がんについて
- インフォメーション
- ヘルシーレシピ

■神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL:078-261-6711 (代表)
FAX:078-261-6726
URL:<http://www.shinkohp.or.jp>
発行責任者：理事長 山本 正之
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 🔍 検索

<http://www.shinkohp.or.jp>

神鋼記念病院 Medical News 2019 3



特集 遺伝性乳がんについて

乳腺センター 副センター長
松本 元

「うちはがん家系だから乳がんになりやすいから気をつけないと」、とか「母親が乳がんだったから乳がんになりやすいかもしれないから心配」、といったことが聞かれることは良くあります。また反対に「家族に乳がんの患者さんがいないから乳がんになる心配はないのでしょう」と考えられるかも知れません。ある家系にがんの異常集積(その家系の中でがんにかかった人の割合が非常に多いこと)が見られる場合、家族性腫瘍と言われています。家族性腫瘍には遺伝因子、環境因子、偶発因子が考えられますが、遺伝の要因が強い場合、遺伝性腫瘍と呼ばれることもあります。乳がんの場合では全乳がんの5~10%が遺伝性であるといわれており、これらの遺伝的な要因が大きく関与している乳がんの

中でも大きな割合を占めるのが、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)であることが知られています。

2013年5月、アメリカを代表する女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが、乳がんを予防するため両乳房を切除したことが報道され大きな話題となりました。彼女の母親は卵巣がん、乳がんを発症し亡くなられたようです。さらに母方の祖母は卵巣がん、叔母も乳がんを亡くなられたなど家系に乳がんや卵巣がんの方が多数おられました。実際に彼女は BRCA1という遺伝子に病的変異があるこ

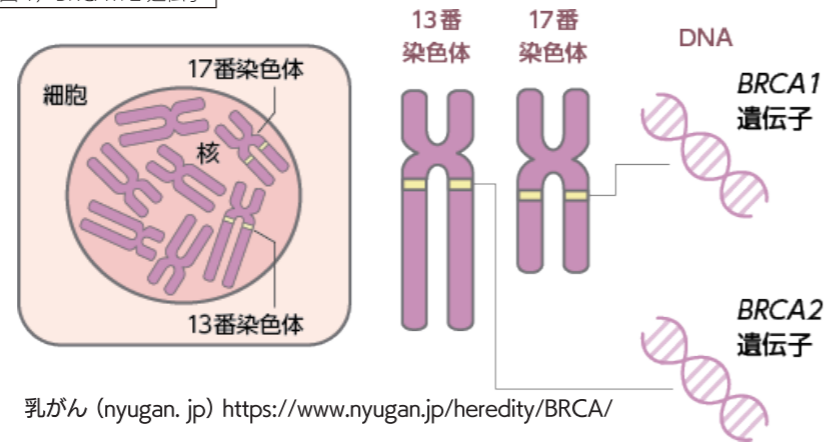


とが見つかり、将来、乳がんや卵巣がんを発症する確率が高いと診断を受け、乳がんを発症する前に手術(両方の乳房を全部切除し、乳房再建を行う)を受けることを選択されました。

ヒトの細胞の中の核に存在する17番染色体にBRCA1遺伝子が存在し、これ以外にBRCA2遺伝子(13番染色体に存在)の病的変異が存在する場合も、乳がんや卵巣がんの発症が高くなります(図1参照)。これらの遺伝子はDNAの傷を修復することでがんの発生を抑えるがん抑制遺伝子です。よってこれらの遺伝子に生まれつき変異がありうまく機能していないと、乳がんや卵巣がんを発症しやすいことが知られています。これらのいずれかの遺伝子に病的変異がある場合に、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)と診断されます。その特徴として、表1が挙げられます。

また、BRCA1遺伝子やBRCA2遺伝子の病的変異は、性別に関係なく親から子へ50%の確率で受け継がれます(父か母のどちらかから遺伝子を受け継ぐため)。病的変異があってもがんを必ず発症するわけではありませんが、将来的に乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膵臓がん等を発症するリスクが高いことが分かっています。さらにこの遺伝子の情報は生涯変

(図1) BRCA1/2 遺伝子



乳がん (nyugan.jp) <https://www.nyugan.jp/heredity/BRCA/>

(表1)

○若年で乳がんを発症する
○トリプルネガティブ(エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2の全ての発現がないタイプ)の乳がんを発症する
○両方の乳房にがんを発症する
○片方の乳房に複数回乳がんを発症する
○乳がんと卵巣がん(卵管がん、腹膜がんを含む)の両方を発症する
○男性で乳がんを発症する
○家系内にすい臓がんや前立腺がんになった人がいる
○家系内に乳がんや卵巣がんになった人がいる

わりません。

このBRCA1あるいはBRCA2遺伝子に病的変異を疑い、検査(血液検査)をする場合は、遺伝に関する専門家(認定遺伝カウンセラーや臨床遺伝専門医)に相談することが勧められます。遺伝カウンセリングによりがんの発症リスクについて理解を深め、ご本人や血縁者の今後の対策や方針を話し合うことができます。このように体質を知ることのできることでがんの発症しやすい臓器の検診などの対応ができますが、一生変わらない情報のため

知りたくないという方もおられます。どのようなリスクがどのくらいあるのか、どのような対応ができるのかなどを遺伝カウンセリングで相談できます。当院では2017年8月に専門の認定遺伝カウンセラーが着任し、2018年12月までに、13人(延べ20人)の方が遺伝カウンセリングを受けられました。

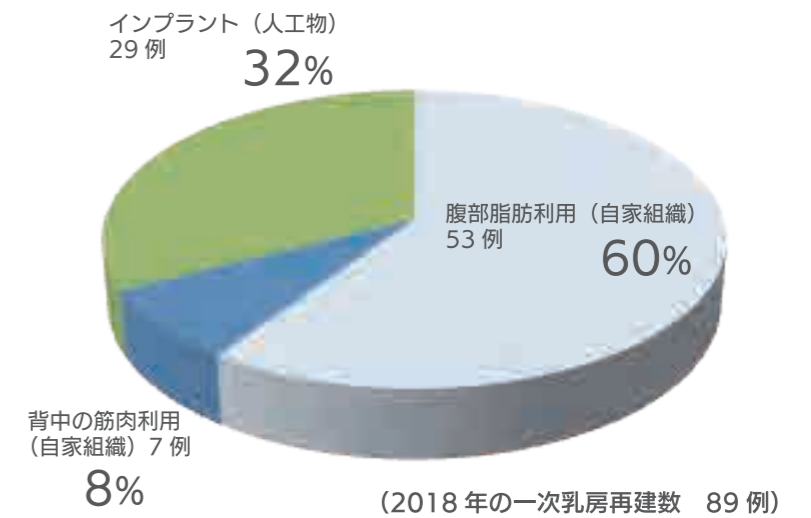
BRCA1あるいはBRCA2遺伝子に変異をもつ女性が乳がんを発症した場合、乳房温存術を行うと温存乳房内に再度が

んが発症するリスクが高いことが知られています。そのため乳房温存術が可能と考えられる場合でも、乳房全切除術が勧められます(ご本人が乳房温存術を強く希望される場合には行うこともあります)。

また、2018年の乳がん診療ガイドラインでは、「BRCA1あるいはBRCA2遺伝子に変異をもつ女性で、すでに乳がんを発症していない反対側の乳房に対する手術(リスク低減乳房切除術(CRRM)といいます)が強く推奨される」と記載されており、さらに「乳がんを発症していない方でも、両側リスク低減乳房切除術(BRRM)も弱く推奨される」と記載されております。これらの手術により乳がん発症のリスクが低減することが示されており、乳がん発症の心配についての不安軽減効果や生存率の向上にも寄与すると考えられています。

しかし、これらの手術はがんの発症していない乳房に対する手術であることから、医療者が実施を推奨するものではなく、対象者が自らの意思で実施を選択するのが原則であり、さらに現在のところ、保険適用になっておらず自費診療として実施します。まだまだ実施できる施設は限られており、当院でもまだ施行していません。

(グラフ1)



当院乳腺センターでは、2018年には339症例(359乳房)の乳がん手術が行われており、そのうち89症例(97乳房)が形成外科と連携した一次乳房再建手術(乳がんを切除する手術と乳房再建のための手術を同時に行う)であり、全国的にも乳房再建を伴う乳がん手術が多い施設です。特に、手術手技の難易度が高いお腹の脂肪を小さな血管付きで移植する方法を多く採用しており、形成外科の技量は高いと言えます(グラフ1参照)。形成外科との緊密な連携のもと、切除は乳腺外科、再建は形成外科との完全分担制をとっています。前述の腹部脂肪の乳房再建よりも難易度が低いと考えられている人工物(インプラント)再建でさえも、乳腺外科単独よりも、形成外科との分担で行う方が美容に有利と考えています。他施設の日本乳癌学会専門医の先生からも、整容性が良好(美容的

に出来栄が良い)との評価をいただきおり、近隣のみならず県外からも乳房再建を伴う手術のご紹介をいただき、年々増加しています。

アンジェリーナ・ジョリーさんが選択されたように、BRCA1あるいはBRCA2遺伝子に病的変異を持つ女性に対し、本邦でも、将来の乳がん発症のリスクを低減するための予防的乳房切除、乳房の喪失感を感じなくてすむ乳房再建が施行可能となっています。当院の形成外科と連携した質の高い乳房再建が可能であることを背景に、当院乳腺センターでも乳房再建を伴う予防的乳房切除を行うべく、準備をすすめているところです。